



## 地域に学び 魅力と課題を肌で知る

広島市立大学がある広島市と近隣の市や町は、一体となって人口240万人を超える大きな経済・生活圏（広島広域都市圏）を形成しています。この圏域は、温暖な気候で暮らしやすく、賑わう都市部をはじめ、美しい海や田園、里山といった多彩な環境を擁しています。有名な観光地もあり、人の往来も盛んで、産品も豊富です。人口の減少や高齢化などの共通の課題をかかえながらも、それぞれの歴史や文化を活かし、地域を元気にし、活性化する取組が行われています。

験や活動を行います。地元の人とのコミュニケーションもあり、思わぬ発見もあります。そうした現場でのアクティブラーニングにより、気付きや問題意識が生まれ、グループでの議論によって地域をより良くしていくための提案などを導き出し、全員で共有します。そうしたプロセスによって、この地域を深く知り、魅力を実感してもらうことが演習のねらいです。同時に、行動力や考察力、グループワークといった力を養うことにもつながっています。

本学では、この地域を学習する「地域課題演習」を開講しています。大学の学習はキャンパス内での講座や研究・制作だけではなく、この演習は、テーマを選んでその地域について事前の学習を行った後、現地に出かけて体験や活動を行います。



世羅高原の6次産業を訪ね、梨農園で広島大学と協働作業（世羅町）



瀬戸内のハワイ周防大島の島暮らしを体験し、島移住の課題と魅力を知る（周防大島町）



離島の非日常性を体感する（三原市佐木島）



河川環境を利用したリバーツーリングの楽しみ方を知る（広島市）



しまなみ海道を自転車で走って行動情報を収集（尾道市）

ACTIVE LEARNING  
「地域課題演習」による  
アクティブラーニング

## 平和学研究科開設にあたり

平和学研究科長 大芝 亮



吉川元・前広島平和研究所長をはじめ、研究所の教員・職員の尽力により、本年4月、平和学研究科が開設されました。

私は、本研究科での教育・研究に、次の姿勢で取り組んでいきます。第1に、被爆地・広島を取組・成果を継承・発展させ、内外の次世代に伝えていくことは、平和学を学ぶ者のミッションと考えます。第2に、そのためには、これまでの取組・成果を平和学という学問として確立していくことがひとつの方法と考えます。第3に、核兵器の廃絶に向けて平和に貢献する人材を育成することを目指します。

本研究科では、次のような点に力を注ぎます。

- (1) 「気付く」力・「分析する」力・「伝える」力

次の3拍子揃った人材育成を目指します。まず、何が平和の脅威になっているのか、誰が苦しんでいるかに「気付く」力です。次に気付いた問題を分析・解決するのが「分析する」力です。「伝える」力も重視し、日英両言語での執筆、発表、討論の練習をします。

- (2) 専門性を身に付け、他分野を理解する
- 平和学は学際的学問です。その範囲は、国際政治学・歴史学等から物理学などにも及びます。個々の学生が自身の専門性を身に付けつつ、他分野も理解できることを目指します。

- (3) 多様な学生との交流の中で学ぶ
- 平和学は、学生同士のさまざまな場での交流から学ぶところも大いにあります。社会人、外国人、異なる専門を持つ日本人が相互に学ぶことを重視します。

研究科修了後は、教育者・研究者、公務員、ジャーナリストをはじめ、さまざまな職業を通じて、平和に貢献する人材を育成することを目指します。教員・職員・学生全員で目標に向かっていきたいと考えています。



平和学研究科開設記念講演会の様子

## 平和学研究科開設



このたびの平和学研究科開設は、平和学をはじめ国際政治学、国際法学、国際関係論の関連する専門領域の分析手法を修得し、その上で、現実の諸問題を専門的かつ総合的に分析する能力を有するプロフェッショナルな人材を養成することにより、平和創造および平和維持に貢献することを目的とするものです。

### 修了後の進路

- 新聞社や通信社のジャーナリスト
- 大学等高等教育機関の教育関係者
- 国際 NGO・NPO の職員
- 国際公務員、国家・地方公務員
- 博士後期課程※への進学

など幅広い分野が想定されます。

※修士課程修了後さらに高度な専門性を磨けるよう、2021年度の博士後期課程設置を予定しています。

### 養成する人物像

国際紛争の背景を分析する視点を身に付け、平和創造および平和維持に関するアイデアと手法を世界に発信できる、次のような資質を持つ人材を養成します。

1. 国際関係の仕組みおよび政治・ガヴァナンスの基本構造と人間の安全保障との関連を洞察できる能力を持ち、同時に、紛争予防と紛争解決に向けた有効な予防措置を考案できる研究者
2. 平和創造および平和構築に向けた国際公共政策の立案・策定に貢献できる国際公務員、国際 NGO・NPO の職員、公共政策・国際関係の実務に携わる国家公務員・地方公務員
3. 今日の国際紛争やグローバル問題などさまざまな事象を鋭くかつ科学的に分析する手法を修得し、市民社会や国際社会に向けて平和創造の視点から発信する力を有するジャーナリストおよびマスメディア専門家

### カリキュラムの特色

核戦争の脅威と悲慘さを学び、その上で、戦争と平和の歴史、およびこれまで人類が開発してきた平和創造の手法を修得することを目指します。これらを系統的に修得するため、授業科目を「研究基礎科目」「平和の理論」「グローバル／リージョナル・ガヴァナンス」の3つの科目区分で構成し、それぞれの科目区分をさらに小さな科目群に区分しています。

◆研究基礎科目  
「分析・接近法」では現代社会の基本的な分析手法を学び、「広島と核」ではヒロシマの歴史と使命に基づき、被爆体験を軸としながら核の脅威を学びます。

◆平和の理論  
国際政治学や国際法学を中心とした平和理論の関連科目から構成され、基本的アプローチとともに、グローバル化時代の諸問題の解決に有効な分析アプローチを学びます。

◆グローバル／リージョナル・ガヴァナンス  
アジア、特に東アジア地域研究の関連科目を中心とした科目から構成され、現代アジアの国際関係の構造および政治・ガヴァナンスの基本構造と人間の安全保障との関連を洞察することができる視座と分析能力を養います。

### 概要

- 取得できる学位：修士（平和学）
- 修業年限：2年



2018年度 芸術学部デザイン工芸学科 卒業  
清水 美於奈  
「記憶に咲く花」(染織)  
(H.600×W.4,000×D.4,000mm)  
2018年度 卒業制作  
卒業制作優秀作品、芸術資料館買上作品

3つのひかり 未来をつくる  
広島市立大学  
Hiroshima City University

丁寧に  
一人ひとりを大事に  
社会との関わりの中で  
学生を育てます

